

一般財団法人 一枝のゆめ財団

第16回理事会議案書

開催日時：2022年7月21日（木） 19：30～20：30

開催場所：一枝のゆめ財団事務所（ZOOM会議）

議事次第

○開 会

○理事長挨拶

○資格確認

○議長選出

○議 事

1. 審議事項

第1号議案 第6期事業報告（案）に関する件

第2号議案 第6期収支報告（案）に関する件

第3号議案 第6期会計監査報告に関する件

2. 報告事項

○閉 会

1. 審議事項

第1号議案 第6期事業報告（案）に関する件

前期に引き続き第6期（2021年6月～2022年5月）も、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて基幹事業である治療院運営と講座開催事業は厳しい状況が続いた。こうした中でも、研修生及び臨床実習生の受け入れ、卒後鍼灸手技研究会の事務局受託など公益に資する事業を着実に実施し成果を挙げることができた。一方、訪問マッサージ師の資質向上を目的に進めてきた技能検定事業については関係団体との調整が不首尾に終わり計画を中止せざるを得ない事態となった。以下、第6期に計画した各事業を逐条的に総括する。

なお、事業名の後ろに成果の達成度（自己評価）をA～Dで記したが、以下の基準に依った。

A：十分な成果をあげることができた。 B：ある程度、成果を上げることができた。

C：十分な成果をあげることができなかった、D：成果をあげることができなかった。

1. 一枝のゆめ治療院の運営（C）

第6期の治療院運営事業の実績を表1にまとめた。院内・訪問両部門とも度重なる蔓延防止等重点措置の影響を受けて低迷が続いたが、院内部門に限ると前期と比べ、来院患者数で81人（11%）、収益で71万円（21%）それぞれ増加し、4,072,500円（治療院会員収入を含む）を計上した。一方、12月から閉鎖となった訪問部門の収益が16万円（前期比75万円減）に大幅減となったのが響いて、治療院全体の事業収益は、当初見込み額を100万円余り下回る423万円にとどまった（表2）。

表1 第6期治療院運営事業実績（2021年6月～2022年5月）

	院内施術				訪問施術	収入（計）
	患者数	収入	治療院会員会費			
6月	58	284,500	2	10,000	31,320	325,820
7月	62	306,000	6	30,000	24,360	360,360
8月	63	322,000	6	30,000	31,320	383,320
9月	72	349,500	3	15,000	24,360	388,860
10月	70	344,000	4	20,000	25,410	389,410
11月	73	336,500	7	35,000	24,360	395,860
12月	79	368,500	4	20,000	0	388,500
1月	62	300,000	2	10,000	0	310,000
2月	54	240,000	1	5,000	0	245,000
3月	72	337,000	4	20,000	0	357,000
4月	62	306,500	3	15,000	0	321,500
5月	70	358,000	2	10,000	0	368,000
合計	797	3,852,500	44	220,000	161,130	4,233,630

表2 第6期治療院運営実績 — 第4期・第5期との比較 —

	第6期実績	第5期実績	第4期実績
来院患者数	797人	716人	690人
院内収入	4,072,500円	3,361,500円	2,497,000円
訪問収入	161,130円	910,800円	1,542,400円
総売り上げ	4,233,630円	4,272,300円(x)	4,039,400円

2. 研修生受け入れ事業 (A)

高度な知識と臨床力を備えた鍼灸マッサージ師の育成を目的に第5期から始めた事業である。2021年度の第2期研修生（2021年4月～2022年3月）として受け入れた7人に対し、個々のニーズに応じた実践的で質の高い指導を行い一定の成果を挙げることができた。仕事等の事情で出席不良の研修生も散見されたが、6人の修了者を輩出できた。第3期研修生（2022年4月～2023年3月）は選考試験を2022年3月20日に実施し8人を受け入れた。目下、第2期研修生のうちの継続1人と併せ9人が一枝のゆめ治療院の東洋医療研修センターで充実した研修に取り組んでいる。研修内容の更なる充実を図るためにも、研修生が担当する患者（レジデント患者）の確保が課題となっている（表3）。

表3 一枝のゆめ財団・東洋医療研修センター研修生名簿

	第2期研修生			第3期研修生	
1	今井弘之	日本指圧専門学校	終了	牛田洋介	日本鍼灸理療専門学校
2	梅原いつか	日本鍼灸理療専門学校	終了	大久保沙織	日本医学柔整鍼灸専門学校
3	岡部智香恵	東京医療福祉専門学校	終了	北川裕子	東京医療専門学校
4	権田昌子	東洋衛生学院専門学校	継続	権田昌子	東洋衛生学院専門学校
5	佐藤優成	日本鍼灸理療専門学校	終了	杉内邦江	東洋鍼灸専門学校
6	中嶋雄大	東京都立文京盲学校	終了	成瀬みさ	東洋鍼灸専門学校
7	森 健太	筑波技術大学	終了	藤澤由美子	東京医療専門学校
8				布野聡一郎	東洋鍼灸専門学校
9				茂木裕磨	日本鍼灸理療専門学校

3. 臨床実習生の受け入れ事業 (A)

この事業は、あはき師学校養成施設で学ぶ学生に実践的な実習の場を提供し、あはき師としての基本的な態度と臨床に関する基礎的能力を養うことを目的に第5期に立ち上げた事業である。第6期は、2021年10月～2022年1月にかけて専門学校1校、盲学校2校から延べ69名の臨床実習生を受け入れ、一定の成果を挙げることができた（表4）。

表4 臨床実習生の受入れ実績

学校名	開始日	終了日	受入れ人数
横浜市立盲特別支援学校	10月14日		1名
日本鍼灸理療専門学校(花田学園)	11月2日	1月25日	58名
筑波大学附属視覚特別支援学校	1月17日	1月28日	2名

4. 三療技術向上及び普及促進事業

(1) 講座開催事業 (C)

第6期の講座開催事業は予定していた講座の一部中止や受講者数の大幅な制限を余儀なくされたほか、開講後のキャンセルが相次ぐなど新型コロナウイルス感染拡大によるかなりの影響を余儀なくされた。その結果、事業収入は、予算ベース(291万円)に対し額で165万円、率で57%下回る126万円余りとどまり、治療院運営とならんで財政不振の要因となった(表5・表6)。

(2) 講師派遣事業 (A)

一方、講師派遣事業は5件を受注し、当初予算額(30万円)を下回ったものの、達成率9割超の約28万円を計上した(表5)。なお、講座開催・講師派遣事業は当財団の基幹事業として今後も継続することになるが、安定した講師陣の確保を図るための仕組み(講師人材バンクの立ち上げなど)の検討が課題である。

表5 三療技術向上及び普及促進事業

	月	講師派遣先	講師	内容	収入(円)
講座	通年		表6参照	表6参照	1,262,330
講師派遣	7	東京都盲人福祉協会	坂井友実	腰部・臀部の基礎知識と臨床	224,000
	7	同上	藤井亮輔	腰痛体操-マッケンジー体操	
	8	同上	坂井友実	頸部の鍼灸手技療法	
	10	同上	藤井亮輔	肩周囲炎の手技療法	
	10	マイナビパートナーズ	菅原正秋(外部)	三療施術と医療事故	55,000
合計					1,541,330

表6 第6期講座開催事業実績

	開催日	講座名	講師	受講者数
機能訓練実践講座	6月13日	関節モビライゼーションの基礎と応用	藤井亮輔	3
	7月11日	肩の痛みと可動域制限に対するアプローチ	〃	3
	8月8日	膝の痛みと変形に対するアプローチ	〃	3
	9月12日	上肢と下肢の痛み・しびれに対するアプローチ	〃	5
	10月10日	運動機能評価の基礎と機能訓練の実際	〃	6
	11月14日	関節モビライゼーション(1)、(2)	〃	7
	12月12日	関節モビライゼーション(3)と応用	〃	6
	1月9日	触察と筋パルスで学ぶ骨格筋のかたち(1)	〃	6
	2月13日	触察と筋パルスで学ぶ骨格筋のかたち(2)	〃	7
	3月13日	触察と筋パルスで学ぶ骨格筋のかたち(3)	〃	8
	4月9日	運動機能評価の基礎と機能訓練の実際	〃	7
	5月14日	関節モビライゼーション(1)、(2)	〃	6
	10月17日	腰下肢痛の鍼灸治療	野口栄太郎	2

臨床力向上講座	10月24日	鍼通電療法の基礎から臨床応用まで～中級編～	坂井友実	4
	11月7日	鍼通電療法の基礎から臨床応用まで～中級編～	水出靖	4
	11月14日	鍼通電療法の基礎から臨床応用まで～中級編～	野口栄太郎	4
	11月21日	鍼通電療法の基礎から臨床応用まで～上級編～	藤井亮輔	5
	12月5日	鍼通電療法の基礎から臨床応用まで～上級編～	菅原正秋	5
	12月19日	鍼通電療法の基礎から臨床応用まで～上級編～	坂井友実	4
	5月15日	女性疾患概論 不妊症	小井土義彦	2
	5月29日	女性疾患概論 更年期障害	小井土義彦	2

5. 訪問マッサージ技能検定試験の実施（D）

株式会社フレアスからの依頼を受け、介護やリハビリを必要とする在宅高齢者に対する施術を担うあん摩マッサージ指圧師（以下、訪問マッサージ師）の技能向上を図るための技能検定制度創設準備に2019年以來取り組んできた。しかし、認定訪問マッサージ師講習会事業を展開する関係7団体（マッサージ等将来研究会生涯教育部会）との間で、昨年6月29日と8月4日の2度にわたる話し合いを行ったものの理解を得られず不調に終わった。その後、フレアスとの間で「訪問マッサージ振興協会」（仮称）の立ち上げについて8月31日と10月12日の2回にわたり協議したが、この案も合意に至らず、本案件は計画の中止を余儀なくされた。

6. 卒後鍼灸手技研究会の事務代行業（A）

卒後鍼灸手技研究会（以下、「研究会」という）の事務を代行する事業を2020年4月から受託し、会員名簿の管理、年6回の研究会開催に係る通知の発送と教材（点字を含む）の作成、DVDのコピー・梱包・発送等の業務を行っている。第6期も前期に引き続き、コロナ感染防止対策の観点からオンラインによる研究会を予定通り6回開催した（表7）。

表7 2021年度卒後鍼灸手技研究会の開催実績

	開催日	講師	テーマ	受講者数
1	5月30日	矢野 忠	『スマホ社会の目の疲れと鍼灸マッサージ』	89名
2	6月20日	山口 智	『脳卒中に対する鍼灸治療の実際-後遺症の改善と脳血流の増加反応について』	62名
3	7月25日	藤井亮輔	『慢性の膝関節痛の病態と鍼灸手技療法』	57名
4	10月3日	松浦悠人	『鍼灸臨床で必要うつ病の病態把握と鍼灸治療』	55名
5	11月28日	安野富美子	『レディース領域における鍼灸治療とその実際』	56名
6	1月23日	前田智洋	『腰痛の診察法と病態に基づく鍼・あん摩療法』	54名

7. 広報活動の強化（B）

ホームページの充実を図るとともに、会報「一枝のゆめ通信」の第8号（2021年6月30日）、第9号（2021年9月10日）、第10号（2022年3月1日）を発行した。

8. 経営基盤の強化に向けた取り組み（C）

安定した財団運営を行うため治療院と講座開催による事業収益の増収に務めたが、前述のとおり、第6期もコロナ感染拡大の影響により講座開催事業が大幅減収となったほか、治療院運営事業も当初の見込みを達成できなかった。一方、賛助会員は113人（個人会員89人、ゆめ会員19人、法人会員5社）に入会していただき、前期を約12万円下回ったものの、97万5千円の会費収益を計上した。また、受取寄付も前期より約20万円減となったが41人の方々から104万7000円のご寄付をいただいた。

9. 調査研究事業（B）

2020年4月から5月にかけて、新型コロナウイルス感染拡大の三療業への影響等について緊急アンケートを行ったが、その成果を「月刊視覚障害—その研究と情報—」の第389号に発表するとともに、2021年9月に日本（オンライン）で開催された第15回WBUAPマッサージセミナーで報告した。

第2号議案 第6期収支報告（案）について

第6期の経常収益は、基幹事業の治療院収入と講座収入が低調だったことを主な要因に約1,112円で前期を374万円下回った。一方、経常経費は事務所の賃貸契約の解約に伴う賃借料の削減、職員の異動に伴う給料手当・法定福利費・旅費交通費の低減等の努力により1,049万円だった。その結果、経常収益から経常経費を差し引いた当期経常損減額は約63万円のプラスとなって始めて黒字を計上することができた（正味財産増減計算書）。

ただし、経常収益には臨時的な国庫助成金（事業復活支援金）の1,045,293円が含まれている。また、長期借入金（日本政策金融公庫）の11,595,000円を含む負債合計は13,396,199円となっており、財政は引き続き非常に厳しい状況にある（貸借対照表）。

第3号議案 会計監査報告に関する件

別紙

2. 報告事項

1. 就労移行支援事業の立ち上げに向けた取り組み

視覚に障害のあるあはき師を対象とした就労移行支援事業所（国際鍼灸マッサージ総合研修センター：仮称）の立ち上げに関する検討が第11回理事会（2021年1月16日開催）で承認されたことを受け、当財団と日本視覚障害者団体連合（日視連）及び国際視覚障害者援護協会（IAVA）との3者で昨年7月から協議を始めている。第5回協議からはヘレンケラー協会が加わり、この間、8回の協議会を開催してきた（表9）。

当初はIAVIの現地建替え案を軸にグループホームと就労移行支援事業所の新設を予定していたが、建べい率・容積率の制約等から計画の変更を余儀なくされ、代替案としてヘレンケラー学院の廃校（2025年3月）に伴う跡地利用の可能性を検討することになった。現在、日視連が運営主体となる案を軸に協議が行われているが、利用者の安定確保の可否が焦点となるため、日視連地方組織や盲学校を対象とした需要調査を実施する予定である。

表9 就労移行支援事業所設立に関する協議会の実績

開催日		参加団体
7/3	第1回	日視連（竹下理事長）、IAVI（石渡理事長）、ゆめ財団（藤井専務理事）
7/26	第2回	日視連（竹下）、IAVI（石渡）、ゆめ財団（藤井）
8/30	第3回	日視連（竹下）、IAVI（石渡）、ゆめ財団（藤井）
12/1	第4回	日視連（竹下）、IAVI（石渡）、ゆめ財団（藤井）
12/8	第5回	日視連（竹下）、IAVI（石渡）、ゆめ財団（藤井）、H協会（奥村理事長）
3/12	第6回	日視連（竹下）、IAVI（石渡）、ゆめ財団（藤井）、H協会（奥村）
5/10	第7回	日視連（竹下）、IAVI（石渡）、ゆめ財団（藤井）、H協会（奥村）
6/21	第8回	日視連（竹下）、IAVI（石渡）、ゆめ財団（藤井）、H協会（奥村）
8/3	第9回	日視連（竹下）、IAVI（石渡）、ゆめ財団（藤井）、H協会（奥村）

2. 会議

1) 理事会・評議員会

- ・第11回理事会（定時） 2021年6月12日
 - (1)新型コロナウイルス感染症特別貸付制度に基づく借入金の契約について
- ・第12回理事会（定時：決算） 2021年8月7日
 - (1)第5期事業報告（案）に関する件
 - (2)第5期収支決算報告（案）に関する件
 - (3)第5期監査報告（案）に関する件
 - (4) 就労支援事業の創設に向けた取り組みについて
- ・第10回評議員会（定時） 2021年8月21日
 - (1)第5期事業報告（案）に関する件
 - (2)第5期収支決算報告（案）に関する件
 - (3)第5期監査報告（案）に関する件
- ・第12回理事会（臨時：ZOOM） 2022年2月4日
 - (1) パート事務職員の採用について
- ・第13回理事会（定時：ZOOM） 2022年5月15日
 - (1)第7期事業計画案に関する件
 - (2)第7期収支予算案に関する件
 - (3)任期満了に伴う評議員の推薦に関する件

○談話：第3回全国あん摩マッサージ指圧コンテストについて

2) マッサージ等将来研究会生涯教育部会との協議会（訪問マッサージ関係）

- 第1回 2021年6月29日（ZOOM会議）
- 第2回 2021年8月4日（ZOOM会議）

3) 株式会社フレアスとの協議（訪問マッサージ関係）

- 第1回 2021年8月31日（ZOOM会議）
- 第2回 2021年10月12日（ZOOM会議）

4) 事務所の賃貸契約の解約

経費節減のため、令和3年11月末をもって、主に卒後鍼灸手技療法研究会の書籍・備品等を管理していた事務所の賃貸契約を解約した。卒後鍼灸の書籍等は新たに契約した埼玉県川口市のトランクルームに保管している。

以上